

○撮影完了を450口到達で

迎えよう！

21. 11. 10



information 23

映画千代子運動

共同発行*桂壮三郎監督・映画製作を支援する全国の会・治安維持法同盟映画千代子チーム
担当・藤田＝☎090-4527-1129 fax04-7174-2028 mail:fujitahiro@outlook.com

●映画ロケ完了、千代子最後の 手紙撮影 12/1 in 苫小牧

「わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯」ロケは、10月11日長野県からスタート。同盟協力のエキストラを得て進行している。

映画のラストシーンを飾る「千代子獄中最後の手紙」撮影交渉は、現地同盟組織の粘り強い働きかけでついに実現、画面を通じて初めて公開されることとなった。12/1 現地へ撮影班派遣。2日、桂監督の撮影完了宣言記者会見を札幌で行う予定。

撮影初日は、5次にわたる治安維持法弾圧に抗してたたかった旧制松本高校で。ついで郷里・諏訪に入り、10月後半は、関東各県での撮影へ。新型コロナ下の、諸困難乗り越えて、とりわけ同盟や民主諸組織の協力で 160人近い自弁エキストラの出演(写真)を交えて進められてきた。

こうして、粘り強い千代子学習会をテコに、支援者の手で製作資金のすべてを生み出すという、わが国で初めての映画運動が前進している。こうして映画撮影完了に最低必要な第一次製作資金450口をめざす運動は、既に400口目前まで到達している。



▲埼玉県・深谷シネマでの撮影には高校生3人が参加

●映画完成報告会開催のご案内

◆22年1月18日(火)午後時1時半～5時
全労連会館2階ホール 定席100人

第1部 試写会(短時間)と記者会見
第2部 映画運動全国交流会
第3部 エキストラ出演者交流会

- ①参加申込受付開始 12月1日～先着100人まで
(原則としてワクチン2回接種者・申込先☎090-4527-1129・藤田)
- ②オンライン中継 第1部、第2部=全国100台まで
受付(県・地域実行委員会、同盟県・支部、上映債権
取得者=団体等を優先して受け付け中)
申込先=同盟オンラインチーフ・井藤英治宛
itto-msn@agate.plala.or.jp ☎070-5075-8263



“千代子姉さん、やっと軍国主義のいやな時代が終わりました。治安維持法が無くなり、特高警察も廃止されました。千代子姉さんが訴えていた、侵略戦争反対、主権在民、男女の平等など、千代子姉さんのこころざしが、みんな、実現しました”

▲アルプスの山なみを背に千代子の墓標(白樺の樹根本)に涙ながらに伝える平川ふみとその撮影シーン

第2次全国展開・学習会再開へ

撮影開始で1か月間中断していた、千代子学習会が再スタート。

講師陣には、『漫画・伊藤千代子の青春』を描いたワタナベコウさんが加わります。

11/14	岡山県同盟総会記念・公開講演会	藤田
11/20	千葉県労連青年部	〃
11/21	長野県下伊那実行委員会	〃
11/26	埼玉県第1回上映実行委員会	〃
11/27	静岡県同盟総会記念講演会	〃
11/28	徳島県学習会	ワタナベコウ
12/3	同盟世田谷支部・出版記念講演会	〃

◆『治安維持法と現代』秋季号―千代子関連

- ①石城謙吉氏 「浅野晃―その転向の軌跡」
- ②木越 暁氏 「詩吟・ああ伊藤千代子追悼詩」
- ③上田精一氏 「短歌・クランクイン わが青春つきるとも」



家族でエキストラとなる 菊池誠一

(昭和女子大名誉教授)

この映画に、たいへんな関心があった。

ひとつは、主人公が戦前の治安維持法犠牲者で、身近に感じられたこと。私の出身の村(高崎郊外)から、同じ時期、同じ監獄につながれた田口ツギさんがいる。私の親族も治安維持法犠牲者であった。

ふたつめは、映画に登場する歌人・土屋文明は、私の母校の大先輩であること。

みつめは、この映画は、右傾化する社会・政治状況を告発する、すぐれて歴史的な映画になり、これに参加することで、家族の思い出をつくりたい、という気持ちであった。

高校生の娘は、東京女子大学生役を願っていた。当日は、体調がすぐれず、また袴がはけなかったことを残念がっていたが、文明役の俳優・金田さんと話ができたことを喜んでいて。中学生の息子は、着物を着ると丁稚小僧となったが、袴をはくと書生に変身した。妻は、着物姿で髪を結うと小料理屋の女将に変身してしまうが、私ともども楽しんでいて。子供たちが大きくなり、この映画を再見するときに、親の思い、そして映画の思いを知ってもらえればうれしい。(同盟目黒支部)

原作『時代の証言者 伊藤千代子』を読む

岡山県・内田みどり

印象的なのはやはり、大学卒業がかかった時期の学費を山本縣蔵の選挙費用にカンパしたことです。そのいきさつを、この『時代の証言者—伊藤千代子』で知ることができました。夫の浅野晃が「俺に出来ないか」と求めたのがきっかけだったのには驚きました。千代子さんの志を結果的に絶った浅野のあの一言に怒りさえ覚えました。しかしまた、千代子さんは浅野の言葉に従属したわけではなく自分で選び取ったはずであることが、この本からは読み取れます。

千代子さんの足跡を軸に、実にあちこち方々から千代子さんの息遣いを丁寧に拾い集めて編まれた『時代の証言者—伊藤千代子』。「伊藤千代子

て誰?」と思って読み始めました。しかし千代子さんが書いた手紙と、その頃の彼女の身边での出来事とを照らし合わせながら彼女の人生を追うように読み進め、後半に差し掛かったあたりではすっかり立体の形で千代子さんをとらえられるような感覚になりました。千代子さんにまつわる史資料や、彼女を知る人の証言・記録がのこされていたことにまず驚き、またそれらを集めてまとめられた労力に、敬服するばかりです。そして、ついに映画「わが青春つきるとも～伊藤千代子の生涯」がクランクインしたことで、スクリーンに千代子さんが蘇る実感が湧いてきたところです。

(原作本は品切れのため第3刷りに入りました)



▲市ヶ谷刑務所の獄窓越しに再会果たす下田(塩沢)富美子撮影シーン。のち野呂榮太郎と結婚(東京女子大社研で学習し、共青同盟員に。1928年10月検挙され、着物の襟に鉛筆の芯を縫い込んで持ち込み、それがのちに千代子等のメモ通信に使われた)

【参考紹介】

映画「わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯」第1回埼玉県上映実行委員会開催のお知らせ

連日のご活躍に対し、とりわけ総選挙でのご奮闘に心からの敬意を表します。

さて過日「わが青春つきるとも」の製作・上映へのご協力をお願いしたところ、それぞれご賛同を頂き、製作・上映協力募金やエキストラ出演・学習会へのご協力に対し、厚くお礼申し上げます。

映画の撮影も順調に進んでいます。つきましては、第1回埼玉県上映実行委員会を開催いたしたくご案内致します。

記

★11月26日 午後1時半～4時・3階コラボA

★議題 これまでの経過について/今後の取り組みについて/他

★この会に、原作者の藤田廣登氏が参加します。

治安維持法国際同盟埼玉県本部会長 矢島恒夫

◆各地の「民主新報」が映画撮影開始を機に紹介と報道を行っています。

「京都民主新報」10/24付は、藤田の現地ルポと論稿を掲載しています。(ホームページに全文紹介)

「滋賀民報」は10/31日付で、千代子の生涯と映画進行を伝え、出演の嵐圭史さんの談話を掲載しました。